

# 日刊 磐城時報

編輯者 石城郡平町 田中 弘成  
印刷者 石城郡平町 田中 弘成  
發行所 石城郡平町 田中 弘成  
電話 一四七  
郵政掛號 第三三三號  
廣告料 一行十四字 日金五拾錢  
印刷 日金五拾錢  
代印 日金五拾錢

## 政民くつはを揃へて 言論の火蓋を切る

### 磐城青年同盟も奮起 兩派遊説部の陣容

第三區に於ける政戦は候補者が大和田義平兩派の外に出揃つたので、遂に緊張し、各候補事務所共整然たる陣容を以て運動を開始したが、政友派木村清治氏は今日午後一時石城郡鹿島村、飯野村を振出しに、愈々言論戦の火蓋を切る事になつた。出演辯士は

▲第一部 鈴木辰三郎、千葉彦治、大河原茂平、柏木勝利、横山顯、吉田昌弘、小野正夫、多田井笑次郎、永山勇吉、酒井喜代正、西丸政雄、鈴木一雄、鈴木勇、山田登麿  
▲第二部 井上茂作、大嶺庫、川崎文治、田村参也、馬目武之助、齋藤敏實、佐々木龍若、酒井清、三森虎雄、緑川喜三郎、門傳清吾、藁谷明、關内正一  
▲第三部 古川傳一、押田憲一、榊田市松、緑川信夫  
といふ顔觸れで、木村候補は毎日第一部から第三部までの演説會に顔を出さうといふのであるから、多い日には五六回の演説會場に臨むのでその努力は容易でないと同情されてゐる。尚ほ木村候補者を支持してゐる磐城青年同盟會では同候補者に關係なく後援演説を開催する等、辯士は福島市田子健吉、仙臺市

五時磐城校▲九日(時間未定) 内郷、同午後五時湯本三函座 同午後六時平町聚樂館  
◎磐城青年同盟會 ▲五日、川部 勿來▲六日山田、植田▲七日 大久、久の濱▲八日木戸、廣野▲九日龍田、富岡▲十日大野、新山▲十一日長塚、浪江▲十二日好間、平窪▲十三日 赤井、好間▲十九日平、内郷

## 結束を計る比佐派 不安を抱く民政幹部

野崎氏の公認争奪に依つて遂に事實上二分した形となつてゐる石城民政の比佐候補はその後で、野崎氏等一派との反目日に増し加はるばかりで秋原、若松、吉田(五)草野氏等首魁幹部は此際徹底的に野崎派の勢力を一掃すべく、比佐候補の必勝を期して死闘を繰り出す。東京朝日新聞社主催の選挙座談會は昨報の如く四日午後五時から平町住吉屋本店に開き、城炭礦から事務課長濱崎善三郎、坑夫組長西川元市、關熊藏、古河炭礦から事務主任前松松佐嘉、坑夫下坂固藏、入山炭礦から事務主任小浦六之助、坑夫上野正太郎、湯本助役中里顯太郎、内郷村管波忠治、中村彌平次、社民黨廣瀬貞、政友會古川傳一、民政黨若松松三の各氏、朝日社から永井政経部長臨席、主として礦山労働者方面に於ける選挙に對する之が對策を協議した。平町當局では前年度(四年度)に並に四月の新學期から開校する

泉、渡邊▲十四日玉川、鹿島▲十五日豊間、江名▲十六日高久、夏井▲十七日赤井、小川▲十八日平  
◎比佐派 ▲五日入遠野、上遠野、湯本、磐崎▲六日大野、内郷、草野、神谷▲七日平、鹿島、磐崎、渡邊▲九日好間、赤井、小川▲十日川前、桶賣▲十一日下三坂、上永井▲十二日澤渡、永戸、箕輪▲十三日小名濱、江名、豊間▲十四日飯野、高久、夏井▲十五日具泊、石住、田人▲十六日山田、川部、錦、勿來▲十七日赤井、好間▲十九日平、内郷

## 野崎氏一派の努力で 氏家氏にゆく投票

第三區北郡民政公認氏家清氏が二千名に配布するに當り左の如南部の石城郡に何の程度の進出き依頼状を同封發送する事になす。注目される所であつた。同派では豫想の如く比(前略) 陳者第五拾七帝國議會は解散せられ来る二十日を以て總選挙執行の事に相成候處吾が政友會に於ては解散選挙の常道に則り前代議士木村清治氏を最適任者として推薦する事に一決致し候木村清治氏は人格崇高高見卓越し吾人の選良として訪るに足るは既に御承知の如く曩に氏を議會に送るや賤食を忘れて邦家憲政の爲め奔走して倦まず清廉高潔なる政治家として疾く認められ昨年獨逸に開催されし萬國議院商會議に代表委員として派遣されしは獨り氏のみならず氏を送りし我等選挙民の等しく誇りとする次第に候茲に再び氏を推薦するに該り前同様の御同情御後援に依り多数を以て當選の榮を擲はしむる様特に御依頼申上候

昭和五年二月 立憲政友會 石城政友部會 敬 具

▲四日住吉屋本店に開かれた選挙座談會で入山炭礦事務課主任小浦氏「議會解散以來鐵道省へ石炭が賣れないが、察するに三井、三菱系統から何かの意味で俄かに買入事になつたらしいが、選挙事正の問題にはなりましたか」  
▲某礦夫さん「選挙権を持つた處、比佐代議士から年賀狀が來たのでうれしくて死ぬまで忘れられない」と感嘆するも「一人の礦夫「選挙権のないうちは投票もしないで、有権者になつたら俄かに葉書を寄越すなんて、人を馬鹿にしてゐる」

▲農事講習會 石城郡邊村農會主催農事講習會は三日から九日まで七日間同村小學校に於て開催講師は農事試験分場長稲田技師、同矢ヶ崎技師、縣橋本技師、泉村志賀澤之助、郡農事講習會柴田技師の各氏である。

第三小學校の學級を既報の如く減じて職員を整理を計る位より外に方法がないので結局はこれが實現を見るのではないかと噂され、教員間では戦々憚々としてゐる。右について平町其關係吏員は語る。  
學級を減する事は要するに縣の方針に従ふものでなく平町の財政の上から見て計割されただけであるから世間一般が之について兒童にも影響を與へると批判するなら計割は斷じて實行せぬ筈である。しかし學級を減するが故に無暗矢鱈に減首沙汰はせぬと思ふから一あまり心配しなくともよいと思ふ云々。

▲選挙余談  
▲有権者に依頼状  
石城政友部會では木村候補の立候補挨拶を第三區有権者七萬

▲教育費削減のため  
學級と教員整理か  
減首されるのではないかと、ビクビクする教員達

▲政友部會で  
有権者に依頼状  
石城政友部會では木村候補の立候補挨拶を第三區有権者七萬

